

香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑮

慢性痛とペインクリニック

痛みを専門に扱う診療科ペインクリニックとはどのような治療を行うのでしょうか。梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が分かりやすく説明してくれるこのコラム。第15回のカルテは「脊髄(せきずい)電気刺激療法」についてです。

今回は「脊髄電気刺激療法」について説明

しましょう。これは、腰の手術を受けたけれども痛みが改善しない場合(FBSS・

5月28日号参照)などに大変効果が期待できる治療法です。脊髄に弱い電流を流しその刺激によって痛みを和ら

げます。FBSS以外にも腰下肢痛、末梢循環不全、難治性の帯状疱疹(ぼうしん)後神経痛などにも適応が

あります。日本では1992年から保険適応になり患者さんの

刺激によって痛みを和らげる脊髄電気刺激療法

経済的負担は軽くなっています。対象となる患者さんは痛みが強く非常困っている方。薬物療

法(内服治療など)、運動療法、手術や神経ブロック(仙骨硬膜外ブロック、腰部硬膜外ブロック、神経根ブロック、椎間関節ブロック、交感神経節ブロックなど)を行っても改善しない方が対象です。直接脊髄を刺激する

と神経を損傷する恐れがあるので、間接的に脊髄を刺激する方法として考え出されました。

脊髄は脊髄液の中にあり硬膜という硬い膜に包まれています。この硬膜の外側に空間があり(硬膜外腔)、細い電極を挿入して刺激します。具体的には患者さんに腹ばい横向きになってもらい、レントゲンをしながら背中から硬膜外腔に細いリードを挿入します。

刺激の場所を少しずつ移動させ、強さを調整し、効果を伺いながら一番痛みが軽くなる位置を確定します。患者さんの満足が得られたらリードを一時的に(1週間ほど)入れておきます。

効果の程度や満足度を患者さんがこの1週間に判定することができるとです。十分な効果が認められれば埋め込みを行います。

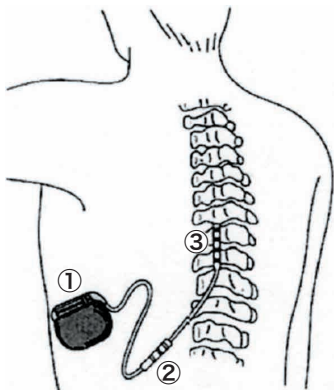
次回(今回は椎間板(ついかんばん)ヘルニアの新しい治療法「椎間板内加圧注入療法」についてです。

■メモ問い合わせ。梶木病院 ☎(293)3355(代)



■プロフィール こうそかべ・よしのり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科、蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て今年4月1日から現職。

日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属



完全植え込み型脊髄刺激装置(アイトレル)
1 電気発生装置
2 接続部位
3 電極リード線

イトレル)は心臓のペースメーカーとほぼ同じ大きさで頸部では胸、腰部では腹部やでん部に埋め込み、パルス発生器を用い皮膚の上から通電します(図1)。その後は自分の生活リズムに合わせて好きなときに電気刺激を与えることができます。今までさまざま治療を受けても痛みが取れずあきらめていた方は一度試してみれば価値があるでしょう。一方で感染の危険やMRI検査ができない、刺激に慣れ効果が低下する、電池交換(寿命は平均5年)が必要といった欠点もあります。